

現状横ばい いも、今後は悪化を予

冬場受注減·原材料 価格高騰が主原因か

売上(受注高)

気見通し調査

○調査概要/管内小規模事業所の短期 的な景気動向を把握するために、年

○調査対象/福井商工会議所 ○調査時期/平成19年12月3日~ 会員小規模事業所 約2、300社 6 日

○回答企業/266社(回収率11・6%)

DI値 とは … ディフュージョン・インデックス

業65社/サ

ービス・その他72社

製造業6社/建設業63社/卸

小売

登結果概要

『今後3ヵ月の予想』では、どの指標で ばいの傾向にあるといえよう。しかし、 かった。企業の景況感は前回同様に横 した『悪化』『回復』の傾向は見られな 干悪化するというように、はっきりと で、『業界の景況』『採算』の指標では若 で前回調査よりも改善が見られる一方 『自社の景況』『売上』といった指

> なっていることから、今回の調査では 料価格の高騰』が多く挙げられていた。 も大幅な悪化が見られた。その理由と しては『冬場の受注減』と『原油・原材 なお、企業の倒産件数が非常に多く

防止的な対策を挙げる企業が多かった。 の信用状況を把握しておく』といっ 先の経営状況をよく把握する』『取引先 の具体的内容は『取引開始の際、 数以下の45・3%にとどまっており、 らかの対策を講じているかを尋ねた。 倒産等取引先の不測の事態に備えて何 『何らかの対策を講じている』企業は半 相手

目社の景況

28.4

34.6

22.8

30.0

16.0

落しており、先行きの悪化を予想して の景況は前回調査よりも上向いている が、『今後3ヵ月の予想』では大幅に下 自社の景況をみると、『現在』の自社

種で悪化を予想している。 ビス業・その他』以外はDI 方『3ヶ月後の予想』では、全ての業 き大幅にDI値を上昇させている。 した。特に『製造業』は前回に引き続 業種別で見ると、『現在』では『サ 値が回復

H19.12 H19.3 H19.6 H19.9

自社景況DI値の推移 ○ -55.0

-55 H18.12

ビス業・その他』で悪化している。 の数値は前回を上回った。しかし、『3 は『製造業』『卸・小売業』で前回より る。業種別に見ると、『現在』の売上で カ月後の予想』では悪化を予想してい お、『今後3ヶ月の予想』では全ての も好転しており、逆に『建設業』『サ 売上(受注高)についても、『現在』 値が前回を下回った。

な

業



仕入価格は

ら割以上が

『上昇』

して で

3カ月後の自社の景況(業種別)

40.4

31.7

43.9



入価格

いると回答している。『今後3ヶ月』



規制の変更 他国との競合 金利の上昇 不測の事態への対策 あまり影響を受けない 17.4% |

何も行ってない 37.2%

仕入価格

■下降 ■変わらず ■上昇

52.6

53.8

63.0

64.8

経営上の問題点(内部要因)

23.4

後継者育成

コストアップ 人件費等の

21.8

資金の調達 商品の開発 発 取引条件の悪化仕入先・販売先と

15.1 13.9

始の際、相手先の経営状況をよく把握 に留まった。具体的な対策は『取引開 と回答した企業は45・3%と半数以下 尋ねた。『何らかの対策を講じている』

する』『取引先の信用状況を把握して

おく』など防止措置を挙げる企業が多

>、以下 『倒産防止共済加入』 『緊急に

9.6

42.2

42.3

33.1

31.6

60%

50%

40%

30%

20%

10%

0%

33.7

確保・育成

る対策が続いた。

販売力不足

といった、倒産等発生後でも対処でき

借入できるような態勢をとっている』

を落としている。

予想しており、企業の先行きに暗い影 見ても、6割以上がさらに上昇すると



性営上の問題点(複数回答)

経営上の問題点(外部要因)

12.4

H19.6調査時

(H19.12調査)

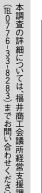
(H19.12調査)

今後3ヶ月

H19.9調査時 3.8

現在

経営上の問題点を内部要因と外部要



(凪0776-33-8283)までお問い合わせください本調査の詳細については、福井商工会議所経営支援課

50% 40%

30%

20% 10%

0%

本年度は、企業の倒産件数が非常に

えた。 イント 格の高騰』は

前回調査よりも12・5ポ

上昇し、今回初めて過半数を超

して挙げてい

特に『原材料・原油価

激化』を過半数以上の企業が問題点と

因としては『同業他社との競争激化』 としては『受注量の不足』を、外部要 因とに分けて尋ねたところ、内部要因

70%

60%

50%

40%

30%

20%

10% 0%

58.7

競合激化との

53.7

価格競争激化

『原材料・原油価格の高騰』『価格競争

一等不測の事態への対策

多くなっているが、こうした取引先の 不測の事態への対策を講じているかを